目次

はじめに　〇〇六

優等生としての前半生を経て、中国留学で覚醒した画聖
雪舟等楊
山水図　〇二二
四季花鳥図屏風　〇二六
慧可断臂図　〇三〇

義輝、信長、秀吉……権力者と共に駆け上がった画壇の覇王
狩野永徳
上杉本 洛中洛外図屏風　〇三四
唐獅子図屏風　〇三八
檜図屏風　〇四二

狩野派への対抗心を乗り越え、独り表現の高みへ
長谷川等伯
恵比須大黒・花鳥図　〇四六
楓図壁貼付　〇五〇
松林図屏風　〇五四

いまだ謎多き画家、町絵師から流派を超えた異端の巨匠へ
俵屋宗達
四季草花下絵和歌色紙　〇六二
唐獅子図杉戸・白象図杉戸　〇六六
風神雷神図屏風　〇七〇

自業自得の生活苦を乗り切る！
前代未聞の手法を使ったデザイナー兼画家
尾形光琳
十二ヶ月歌意図屏風　〇七四
燕子花図屏風　〇七八
紅白梅図屏風　〇八二

生きとし生けるものを慈しむ、信仰心に根ざした超絶技巧
伊藤若冲
牡丹・百合図　〇八六
旭日鳳凰図　〇九〇
動植綵絵　〇九四

「心」を描く文人画の世界で、自分だけの答えを見つけた〝光の画家〟
池大雅
渭城柳色図　〇九八
浅間山真景図　一〇二
蘭亭曲水・龍山勝会図屏風　一〇六

徹底的に〝見る〟にこだわり、一代で流派を築き上げた理論派

円山応挙

眼鏡絵画帖（京大仏図） 一一〇
氷図屏風 一一四
瀑布図壁貼付・山水図襖 一一八

画号も作風も脱皮し続け、老いてなお輝き、身軽になっていく画狂人

葛飾北斎

新板浮絵両国喬夕涼花火見物之図 一二六
椿説弓張月 一三〇
冨嶽三十六景 神奈川沖浪裏 一三四

最晩年、メンターとの出会いで、才能が燃え上がった最後の狩野派

狩野芳崖

花鳥図屏風 一三八
江流百里図 一四二
悲母観音 一四六

世界に通用する日本美術とは？
西洋を知り新たな日本画を模索し続けた巨匠

横山大観

村童観猿翁 一五〇
屈原 一五四

生涯かけて女性の持つ〝美〟を描く。一切ぶれなかった女性画家の先駆け

上村松園

生々流転 一五八
四季美人図 一六六
焔 一七〇
序の舞 一七四
おわりに 一七八
あとがき 一八五
参考文献 一八七

コラム **早世の天才画家**

◈一 父等伯に勝るとも評された若き天才の逆縁　長谷川久蔵 〇五八
◈二 師応挙から離れて自由な筆づかいに。未来の画風はいかに？　長沢蘆雪 一二二
◈三 師の天心や大観ら友人から惜しまれた「不熟」の存在　菱田春草 一六二